



※厚生労働記者会、こども家庭庁記者クラブにもお送りしています

情報解禁日：2025年2月12日

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

<https://www.savechildren.or.jp/>

## 国際 NGO セーブ・ザ・チルドレン、乳幼児期の見えにくい貧困実態を明らかに 国内最大規模約 500 世帯の「乳幼児生活状況調査」初実施

経済的に困難な状況にある世帯では、約半数が紙おむつ、約 4 割が粉ミルクを買えないことも  
保護者の 7 割以上が「孤独」を感じる事が判明

子ども支援専門の国際 NGO である公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン（理事長：井田純一郎、本部：東京都千代田区、以下セーブ・ザ・チルドレン）は、乳幼児がいる経済的に困難な状況にある子育て世帯の調査を実施しました。幼い子どもを育てるにあたっての経済的負担感や、ひとり親の孤独といった実態、また実際に求められている支援を把握することが目的です。

3歳以下の乳幼児がいる、非課税世帯、児童扶養手当受給世帯などを対象に、2024年6-8月にアンケートを行い、同様の調査では国内最大規模となる約 500 世帯（全国）から回答を得ています。

本調査では、経済的な理由により、保護者のおよそ半数が紙おむつを、また約 4 割が粉ミルクを買えなかった経験がある※ことがわかりました。また、子育て中に孤独感を感じる人は 7 割以上いる一方で、6 割以上が乳幼児健診時の相談対応に不満や心理的ハードルを抱えていることが明らかとなりました。 ※完全母乳育児を選択している人は含まない。

本調査結果を踏まえ、低所得世帯向けの紙おむつなど育児用品の支援や、特に支援が必要な妊産婦への対策強化を、こども家庭庁をはじめ関係省庁や自治体へ訴えていきます。

### 【アンケート調査結果(全文)】

<https://www.savechildren.or.jp/news/publications/download/nyuyoji2025.pdf>

### ＜主な調査結果＞ 「深刻な物的・経済的な困窮状況」と「母親の孤立」が明らかに

1. 経済的に困難な状況にある乳幼児の子育て世帯のおよそ半数(49.2%)が、経済的な理由により紙おむつが買えなかった経験が「ある」と回答した。その際の対応として 74.6%が「おむつを替える回数を少なくした」と回答した。
2. 39.6%が、経済的な理由により粉ミルクが買えなかった経験が「ある」と回答した。その際の対応として「粉ミルクを薄めて飲ませた」が 41.1%と最も多く、次いで「粉ミルクをあげる量を減らした」が 27.9%、「粉ミルクをあげる回数を減らした」が 26.8%だった。
3. 子育て中の孤独感について聞いたところ、孤独感を感じる事が「よくある」が 34.8%、「時々ある」が 37.5%と、「よくある」「時々ある」を合わせると 7 割以上が孤独感を感じていることがわかった。また、49.0%が「経済的な理由から適切な養育ができないのではないかと思ったことがある」と回答した。
4. 乳幼児健診時に子どもの健康以外の悩み事や不安について、24.6%が「相談しようと思わなかった」と回答、また 18.1%が「相談したが解決しなかった、気持ちが楽になることはなかった」、13.8%が「あまり相談できなかった」、6.5%が「まったく相談できなかった」と回答しており、6 割以上が相談について、何らかの困難や心理的ハードルを抱えていることがわかった。

<調査概要>

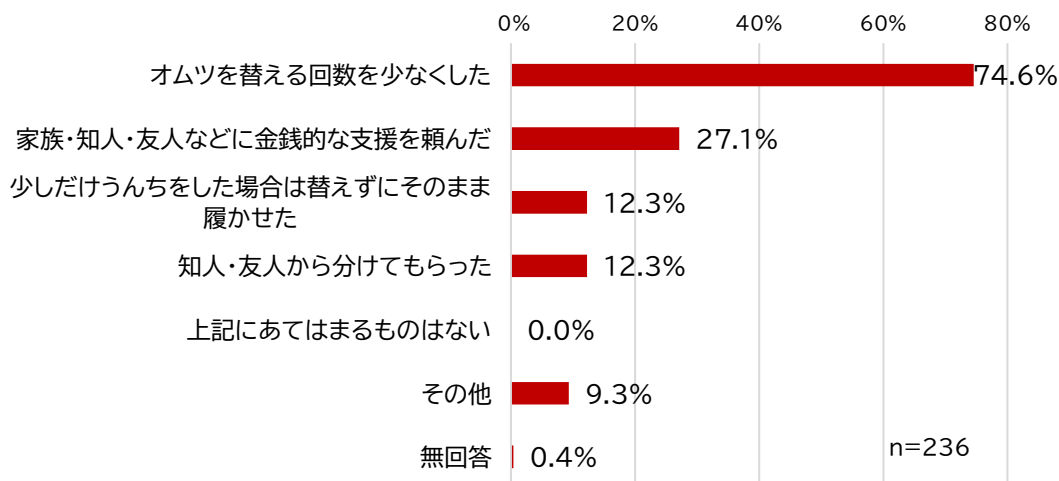
- 調査目的:乳幼児(3歳以下の子ども)を育てる世帯の生活状況を把握し、経済的負担感や悩み、求める支援などを把握すること
- 調査対象:当会の支援事業「ハロー！ベビーボックス」や「子どもの食 応援ボックス」等を利用した世帯のうち、3歳以下の子どもを育てる世帯
- 調査方法:上記世帯に対し、オンラインアンケートをメールにて案内。本調査報告書記載の質問についてはすべて任意回答
- 調査期間:2024年6月22日～8月6日
- 有効回答数:480世帯(人)
- 調査協力:長崎大学教育学部 小西祐馬准教授
- 調査結果:<https://www.savechildren.or.jp/news/publications/download/nyuyoji2025.pdf>  
※貧困研究など行う、長崎大学・小西祐馬准教授による講評も記載しています

<主な調査結果>

● 紙おむつを買えなかった経験とその際の対応について

経済的な理由により紙おむつが買えなかった経験が「ある」と回答したのは49.2%であり、その際の対応として74.6%が「おむつを替える回数を少なくした」と回答した。乳幼児の抵抗力は未熟であり、不衛生な状態が長時間続くことで、おむつかぶれなどの肌トラブルや感染症などにもつながるリスクがある。

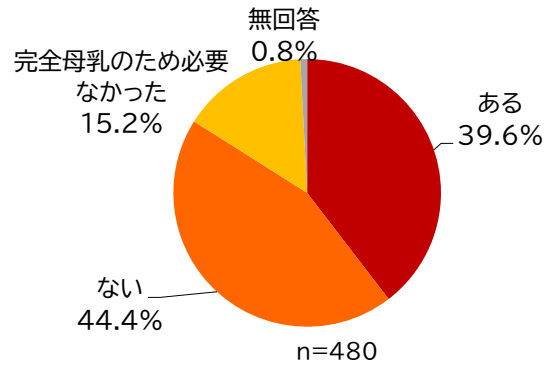
Q. (「ある」と回答した人のみ)その際、どのような対応をしましたか。(複数回答)



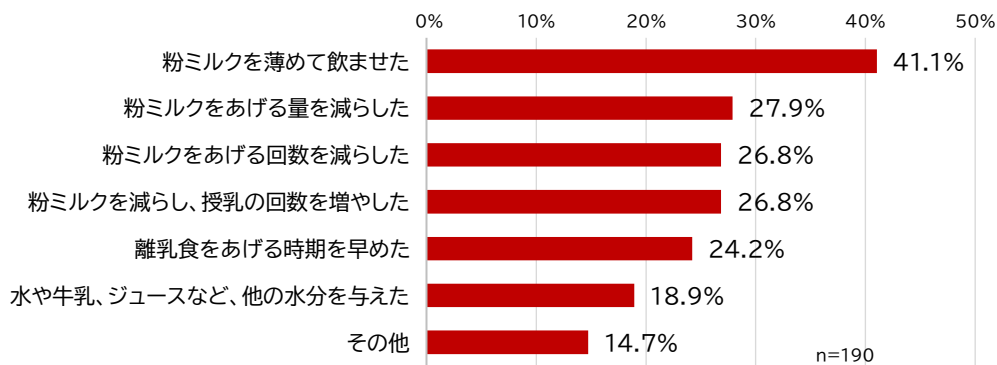
### 粉ミルクを買えなかった経験とその際の対応について

経済的な理由により粉ミルクが買えなかった経験についてたずねたところ、「ある」と回答したのは 39.6% だった。その際の対応として「粉ミルクを薄めて飲ませた」が 41.1% と最も多く、次いで「粉ミルクをあげる量を減らした」が 27.9%、「粉ミルクをあげる回数を減らした」が 26.8% だった。経済的理由から離乳食開始前の乳児へ適切な方法で栄養が与えられておらず、乳児の発達や健康への影響が懸念される。

Q. 経済的な理由により粉ミルクを買えなかった経験がありますか。(単数回答)(応募時・必須・単数回答)



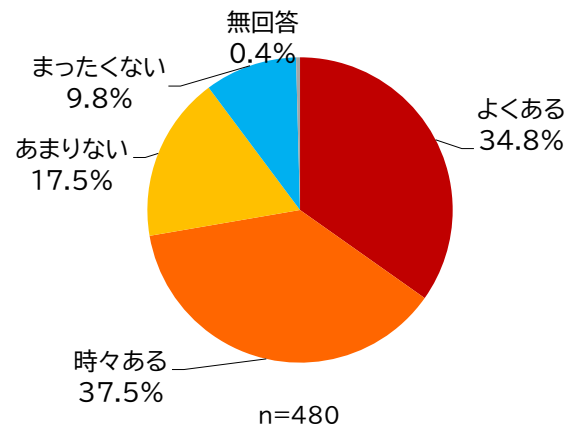
Q. (「ある」と回答した人のみ)その際、どのような対応をしましたか。(複数回答)



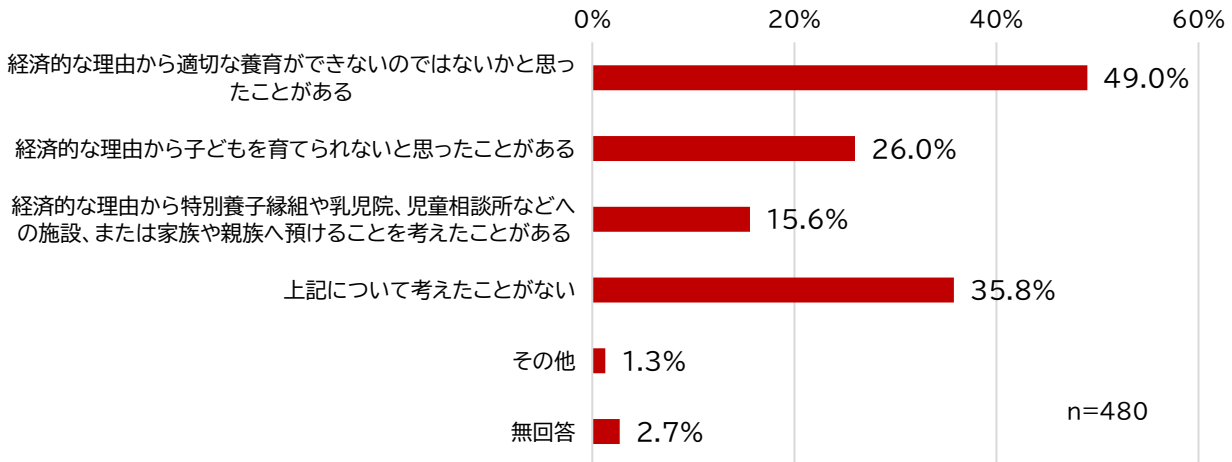
### ● 子育て中の孤独感や子どもの養育について

子育ての中で孤独感を感じる事が「よくある」が 34.8%、「時々ある」が 37.5% と、「よくある」「時々ある」を合わせると 7 割以上が孤独感を感じていることがわかった。また、乳幼児の子育てについては、49.0% が「経済的理由から適切な養育ができないのではないかと思ったことがある」と回答しており、経済的理由による子育て不安が大きいことがわかる。

Q 子育ての中で、自分 1 人で育てているという孤独感を感じることがありますか。(単数回答)



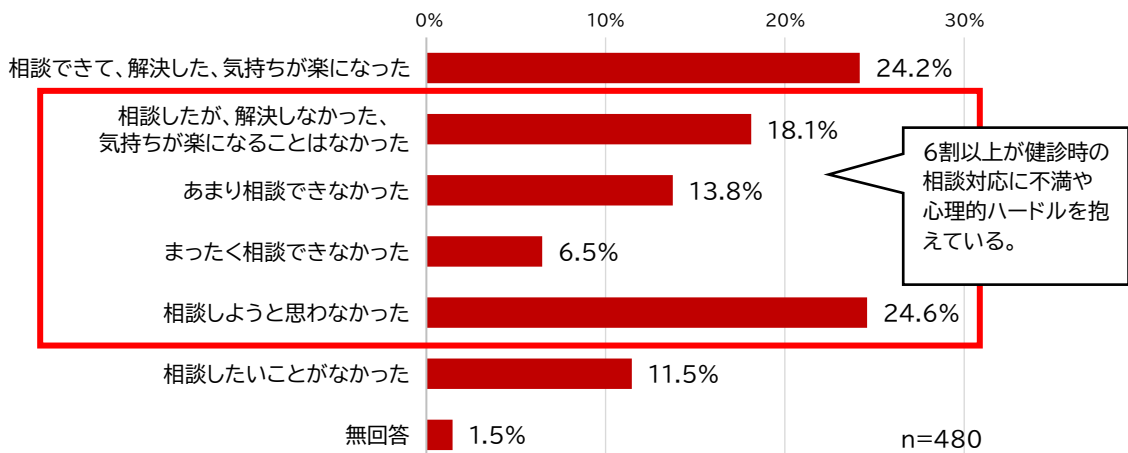
Q. 乳幼児の子育てについて、以下にあてはまるものすべてを選んでください。(複数回答)



### ● 乳幼児健診時の相談について

24.2%が「相談できて、解決した、気持ちが楽になった」と回答した一方、24.6%が「相談しようと思わなかった」と回答した。また「相談したが、解決しなかった、気持ちが楽になることはなかった」「あまり相談できなかった」など、合わせて6割以上(グラフ赤枠部分)がネガティブな反応を示しており、相談機能が十分に機能していないことが示唆される。

Q. 乳幼児健診で、子どもの健康や発達に関すること以外で、生活やお金の面での不安や悩み事について相談できましたか?(単数回答)。



### <本調査結果を受けての今後の活動>

セーブ・ザ・チルドレンは本調査結果を踏まえ、低所得世帯向けの紙おむつなど育児用品の支援や、特に支援が必要な妊産婦への対策強化を、こども家庭庁をはじめ関係省庁や自治体へ訴えていきます。

また、低所得世帯の育児費用の負担を軽減し、少しでも安心して赤ちゃんを迎える準備ができるよう、引き続き「ハロー！ベビーボックス」を通じて「安心、安全な環境に生まれ育つ」といった子どもの権利を保障するため、支援を継続していきます。

## ＜セーブ・ザ・チルドレンの日本の子どもの貧困問題解決への取り組み＞

セーブ・ザ・チルドレンは、2010 年から日本の子どもの貧困問題解決への取り組みを開始し、現在、1) 経済的に困難な状況にある子どもや保護者への直接支援、2) 調査の実施や教材の普及など社会啓発、3) 子どもの貧困対策の拡充のための政策提言 という 3 つの柱をもとに活動しています。

2022 年 5 月からは経済的に困難な状況にある低所得世帯やその他さまざまな困難を抱える妊産婦とそのパートナー、家族の育児費用の軽減を目的とし、新生児向けの育児用品を提供する「ハロー！ベビーボックス」を実施しています。

2024 年までの 3 年で計 4,073 箱を配布し、2025 年も本取り組みを継続予定です。



本件に対する報道関係の方のお問い合わせ

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 広報室

TEL: 03-6859-0355 / E-mail: [japan.press@savethechildren.org](mailto:japan.press@savethechildren.org)